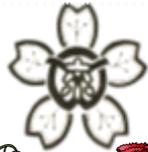
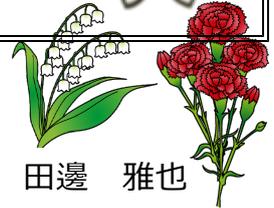


朝六小だより

朝霞市立朝霞第六小学校
児童数 956名
令和3年5月1日号



子の「じりつ」と親の「愛情」で輝きを



校長 田邊 雅也

「子供は、愛されることよって、さらに輝く」という目指す学校像を掲げさせていただいています。保護者・地域の皆様と共有させていただきたい学校像です。

よく言われる「生きる力」の源は、探求力・計画力・実行力の3つに集約されるといいますが、それらの力を得るためには、ふたつの「じりつ」を促す親の「愛情」が欠かせないと感じています。漢字で書くと、「自立」と「自律」です。ふたつを両輪として育むことが、社会の中で「輝く」人に育つことにつながるのではないのでしょうか。

「自立」 助けや支援を受けずに自分の力で物事をやったり自己管理をしたりすること

持ち物の準備、着替え、机の整頓、宿題の提出、親や教師の言うことで行動すること 等

「自律」 自分で立てたルールで、自分のことは自分でやっていくこと

内面的な要素が強く、自分自身で決め、信念をもって進む行動。友達がいけないことをしていたら、「やめよう」と自分で判断したり、注意したり、助けたりすること

「自立」ができないと、他の友達ができているのに自分はなぜできないことが理解できず、結果として子供自身が苦しみます。「自律」ができないと、気持ちをコントロールすること、他の人の気持ちを理解すること、人のために尽くすこと、目標に向かって努力することなどができません。これでは生きる喜びが見つけれられません。

親が、子供の身の回りのことをやってあげたり、スポーツ・習い事・学習塾に通わせたりするのも愛情のひとつです。しかし、「押しつけ」にならないよう注意も必要です。親の言うことをきいて行動するという「自立」になるかもしれませんが、自分で選んで進む、という「自律」にはつながりません。他にも、「友達みんなが持っているから。」「友達みんながやっているから。」とよく子供は話しますが、これも、流されているだけで「自律」とは言えません。

「自分から」「自分の力で」が重要です。壁を乗り越えようとしている我が子に、親が手を差し伸べてあげることよりも、忍耐強く見守り、自力で頑張った子供を認め、褒めることが「愛すること」だと思います。その積み重ねこそ、子供が「さらに輝く」原動力となります。幼児であっても、小中学生であっても、そして私たち大人に対しても同じことではないのでしょうか。

「自立」と「自律」は、学校でも社会でも人間形成に欠かせないものです。学校は、知徳体の育成に合わせ、「じりつ」の力を同時に育むことも目指しています。こうした「じりつ」を子供たちに身に付けておかないと、将来、自己肯定感が育まれず、前向きで明るい人生になりません。

本校のある学級に、「自考・自行・自高」(じこう)という文字を見つけました。自分自身で考え、行動することが、結果的に自分自身を高める、という意味です。まさに「じりつ」(自律)させることを目標にしています。子供たちには、ぜひそうなってほしいと感じます。

東京都では、「緊急事態宣言(4/25~5/11)」が出され、朝霞市は、「まん延防止等重点措置(4/28~5/11)」に指定されました。GWの移動こそ制限されますが、我が子の「じりつ」と向き合う絶好のチャンスです。現在、教育界は「GIGAスクール構想」により学びのデジタル化が急速に進行する毎日ですが、ぜひ、GWは我が子の「じりつ」とじっくり向き合い、文字通り、「親の愛で我が子をゴールデンに輝かせる連休」となるようお願いいたします。